

## (5) 東海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

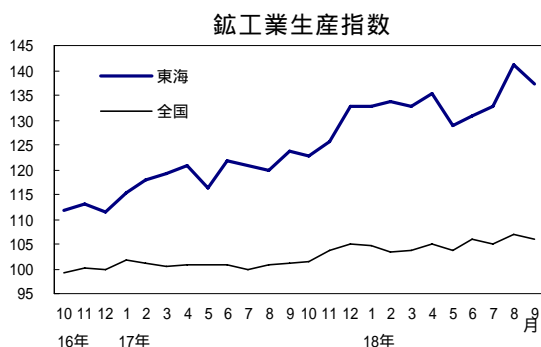
前回調査からの主要変更点

なし

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられたものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出が好調だったことなどから、高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内需要は一般機械向けを中心に、海外需要は北米向けを中心に好調だったことから、2四半期連続で減少したものの、高水準で推移している。電気機械は、内燃機関電装品や電動機が自動車関連向けを中心に堅調に推移し、制御機器も、半導体関連向けを中心に好調だったことから、増加している。窯業・土石は、食器・陶磁器が低調に推移しているものの、ファインセラミックスが自動車向けを中心に好調だったことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、高水準で推移している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移し、液晶素子もテレビ、携帯電話など情報通信機器向けに好調だったことなどから、高水準で推移している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年9月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

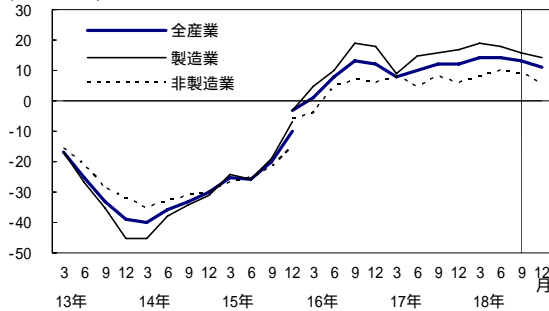
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	33.9	1.1	0.6	1.6	26.4
一般機械	11.3	0.8	2.5	1.1	9.7
電気機械	7.3	1.3	2.8	3.0	1.3
窯業・土石	6.1	1.2	0.1	2.1	1.5
化学	5.4	2.8	1.3	0.7	1.6
鉱工業	100.0	1.1	4.1	3.6	3.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

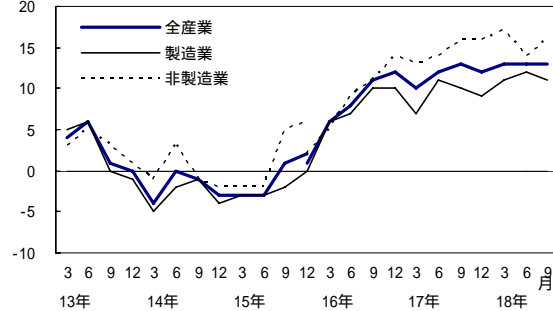
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



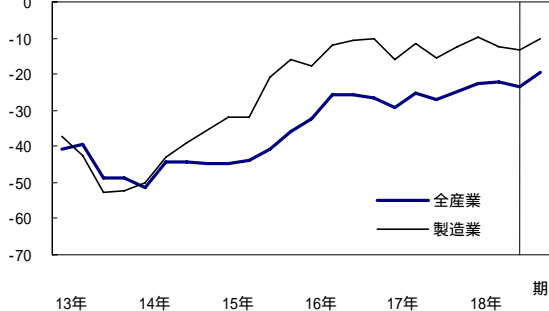
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「競合企業の年末商戦に向けた新製品の投入が活発である。当社の売上も、製品によるばらつきはあるものの、全般的に堅調である(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

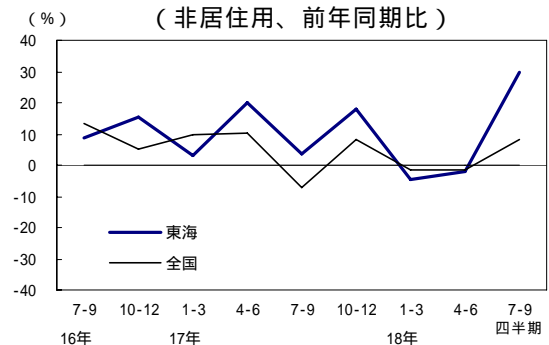
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	15.0	14.5 [14.1]
製造業	28.1	6.3 [5.6]
非製造業	0.9	27.5 [27.4]

(備考)[ ]は前回(6月)調査結果。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

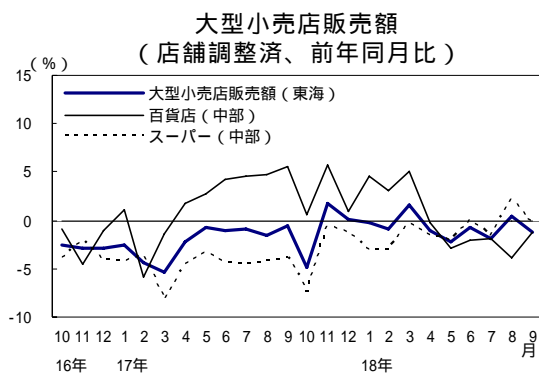
百貨店は、7月は、長雨の影響で水着などの夏季商材の販売が振るわなかったことなどから、前年を下回った。8月は、食料品や海外ブランド商品は伸びたものの、紳士服を中心に衣料品が伸び悩んだことなどから前年を下回った。9月は、秋の改装効果により紳士服や婦人服などの秋物衣料や時計・宝飾品などの高額商品が好調だったものの、愛知万博の売上減を補えず、6か月連続で前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の10月の売上高は、前年同月比で2.8%増となっている。

スーパーは、天候不順の影響により野菜の相場が適度に上昇したことや、8月以降天候が持ち直し、衣料品などの夏季商材に動きが出たことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

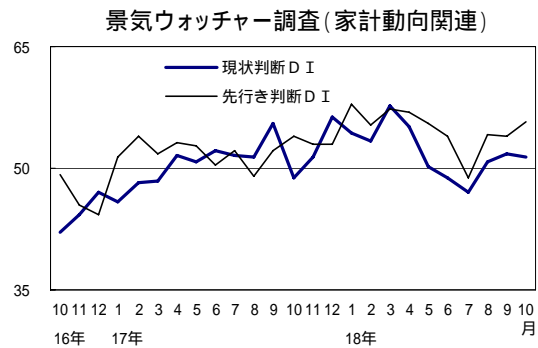
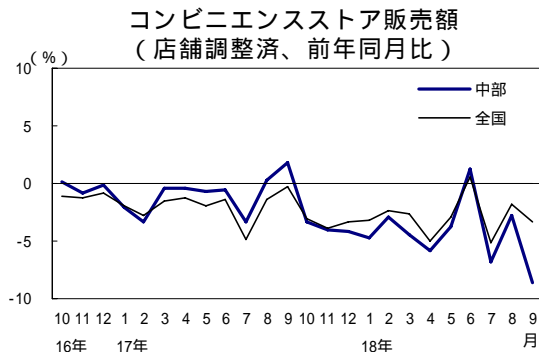
「地元プロ野球チームの優勝セールにより、売上のかさ上げができています。また、紳士服や婦人雑貨は好調を維持している。その一方で、気温の下がり方が鈍いこともあり、特に婦人服の売上は低調である(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同月比、%)



	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.0	0.1	1.4	0.9
百貨店	2.3	4.3	1.7	2.2
スーパー	3.0	2.2	1.2	0.1
コンビニ	3.9	4.0	2.8	6.1
景気ウォッチャー	52.2	55.1	51.4	49.9

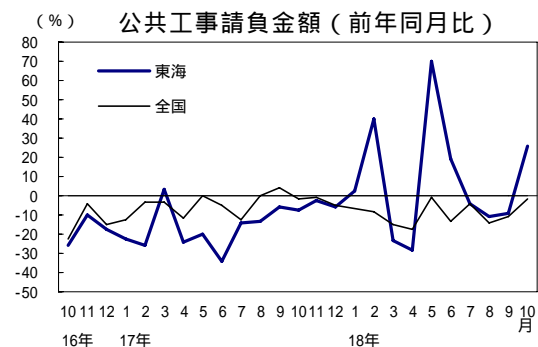
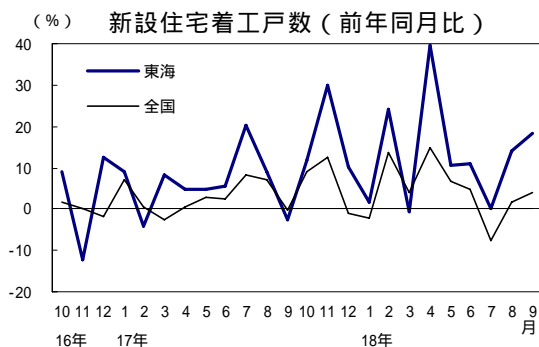
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

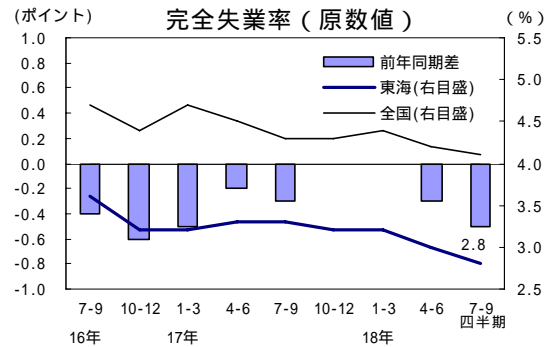
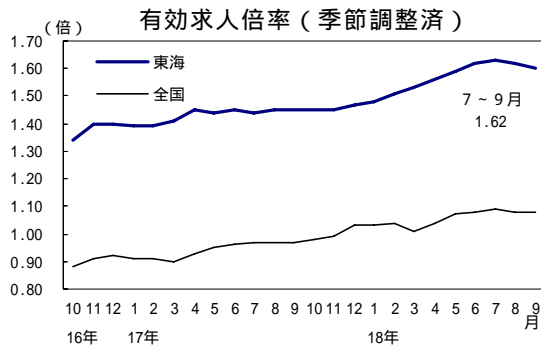


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

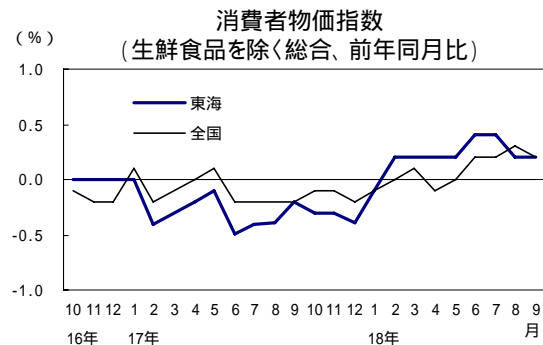
「新規求人数は、多少の増減はあるが高水準で推移している。ただし、非正規雇用の求人が6割以上を占めており、正規雇用を望む求職者との分離が続いている（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	342	309	300	288	113
（前年比）	5.2	7.2	12.8	4.3	0.9
負債総額	1,470	1,001	1,392	1,023	223
（前年比）	53.2	59.6	16.0	21.8	49.6



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・客の様子は明るくなってきている。財布のひもは少しずつ緩んでおり、来客数は増加している。祝い事の贈物やそのお返しも活発になっており、贈答の相乗効果がみられる（一般小売店〔贈答品〕）

<先行き>

・確実に良くなる要素があるわけではないが、様々な企画が少しずつ成果を出しつつあり、方向としては回復に向かっている（乗用車販売店）

景気ウォッチャー調査（合計）

